

■開山十三回忌を厳修■

去る一月五日午後二時から、開

山・模庵白純大和尚の十三回忌法要が東京・本駒込の吉祥寺・岩本昭典老師の導師により厳修された。

開山の模庵白純大和尚は黒田方丈の師父。白純和尚は大本山總持寺の副監院、曹洞宗審事院長、全日本仏教會事務總長などの要職を歴任し、昭和五十四年二月四日に遷化した。導師を勤めた岩本老師は、白純和尚が總持寺顧問会長の頃に總持寺貫首だった故・岩本勝俊禪師の資子であり、全日仏事務局で白純和尚の下で働いたなどの縁がある。

法要後、岩本老師は「数年ぶりに当山に足を運び、焼香させていただいた。感動多き法要だった」と語り、「白純老師は、お会いするうちにす

中央・岩本昭典老師



馬文甲申月轉

中行三月

南得昇劍夕香基

客先ち附

本寺

樂

神とみゆき御三本佛

ニより高とす日吉の御

御

南を井山櫻木山純大御高十三郎と云長

辰飾喜雲南多喜備多喜竹彌重

湯御名居喜道諸山者冥宿以展性暮

所鳴瑞題喜雲塔寺位

忍南宮山能太郎

尊仰喜雲山高年三因蓮老潭加

内氣物配記は式と喜雲生有らる受

法可能花使持通御稱權寺修傳有院

更十不取舉喜雲者もも育失百事海好研修

佛進学生住御利為佛經揮毫修復音未大業

任報國事而西勤修體理十圓御勅御

即ちおれ才子手書之也。松前十二年後

多幸清修其後立於因病矣。而南宮生所

身承應時絕情之也。便

字見滿月立高波古事記延古梅多

予作主事三月日一慶生之某上

土持而文

印

つかり黒田ファンになるという大きなお徳を備え、一見、芒洋とした風貌の中にも細かい心遣いのある方だった。雄弁ではないが、訥々とした中に仏法の法力に与るようなお話ぶりだった」など白純和尚との出会いや全日仏時代の逸話を披露して往時を偲んだ。

本寺の栃木県大田原市・光真寺住職黒田俊雄老師は「黒田方丈は住職二十二年になる。無一物中無尽藏を実践し、無尽藏の花を咲かせた。これもご開山のお力と思う」と挨拶。法要後の供養の席で、黒田方丈は「本日は本当に身内の方と平素お世話になつておられる方だけをお招きした」と参列者に感謝の言葉を述べた。

上は岩本昭典老師御揮毫の香語を表装したもの